

FTTHサービス「eo光」を中心とした暮らしを支えるサービスの提供と、新領域への挑戦

■総合エネルギー事業に次ぐ収益の柱として成長

ケイ・オプティコムでは、高速で信頼性の高い独自の光ファイバーネットワークを活用したFTTHサービス「eo光」を中心に、これまでに約163万件のお客さまにご愛顧いただいています。

おかげさまで、情報通信事業は、総合エネルギー事業に次ぐ、当社グループの収益の柱の一つに成長しています。

現在、同社では「eo光」をはじめ、「eo電気」や「関電ガス」など、お客さまの暮らしを快適・便利にする様々なサービスを提供しています。これらのサービスの中から、お客さまにとって最適なプランをご提案するため、認定を受けた営業スタッフが「暮らしアドバイザー」としてお客さまのご相談にお応えしています。

●サービスラインナップ



「暮らしアドバイザー」の詳細については、こちらをご覧ください。(http://eonet.jp/kurashiadvisor/)

■今後の成長に向けて

中期経営計画で掲げた収益目標の実現に向けて、既存事業の枠や、関西地域に留まらない新事業の展開をしていきます。

例えば、携帯電話サービス「mineo (マイネオ)」は全国のお客さまにご愛顧いただいております。今年度中の加入者数100万件を目標に、mineo 渋谷、mineo 大阪を中心に、名古屋、浜松など全国に店舗を展開し、事業を拡大してまいります。



「mineo」の詳細については、こちらをご覧ください。(http://mineo.jp/)

●mineo加入者数の推移



約77万件
平成29年9月末現在



京都の街へ電気を送り続ける蹴上発電所

蹴上発電所は、琵琶湖疏水の水力を活用すべく、京都市によって明治24(1891)年に運転が開始されました。

明治28(1895)年には、日本初の路面電車が京都の街を走り、その動力や紡績・織物工場、街灯などに使われたのが、蹴上発電所の電気です。

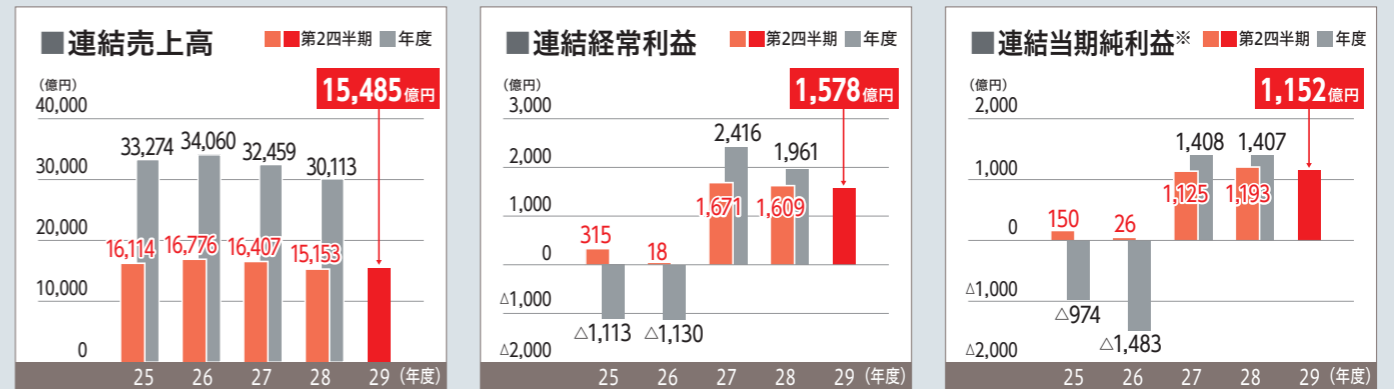
その後、高まる電力需要に応じ設備を更新し、昭和17(1942)年には、当社前身の関西配電株式会社がこれを引き継ぎました。

蹴上発電所は京都や日本の近代化に寄与したことが評価され、昨年9月に「IEEEマイルストーン」※に認定されました。運転開始から100年以上。日本最古の事業用水力発電所は、現在も京都の街へ電気を送り続けています。



※IEEEマイルストーン:電気・電子技術に関する世界最大の専門家組織「IEEE」が、技術革新のなかでも地域や産業の発展に貢献した歴史的業績を顕彰するもので、1983年に創設。

Financial Highlights



※親会社株主に帰属する当期(四半期)純利益を指します。

収入面では、販売電力量の減少や電気料金の値下げなどにより電灯電力料収入は減少したものの、託送収益や他社販売電力料などが増加したことに加え、ガス供給事業や情報通信事業の売上高が増加したことなどにより、売上高は前年同期に比べて増収となりました。一方、支出面では、徹底した経営効率化に努めたことに加え、高浜発電所3、4号機の運転再開による費用低減効果があったものの、燃料価格の上昇により燃料費やガス供給事業の原料費が増加したことなどから、経常費用は前年同期に比べて増加しました。この結果、**経常利益は1,578億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,152億円**となりました。

